



第21号

徳島高P連

徳島県高等学校PTA連合会 だより

2019.10.21

発行・編集
徳島県高等学校PTA連合会事務局

〒770-0003
徳島市北田宮1丁目8番68号(教育会館2F)
TEL.088-678-7775 FAX.088-678-7776
HP <http://www.tokukoup.com/>
E-mail tokukoup@jewel.ocn.ne.jp
印刷:浜田印刷

目次

2, 3, 4

第63回
中四国高P連徳島大会
第1回準備委員会報告

第62回
中四国高P連
広島大会予告

第70回
全国高P連
鳥根大会予告

5, 6

令和元年度
高P連総会
安全互助会総会報告

7 第61回
中四国高P連
鳥取大会報告

8 第61回
中四国高P連
鳥取大会に参加して



講師：柳リクルートマーケティングパートナーズ
まなび事業本部 進学総研G キャリアガイダンス編集部
編集長 山下真司氏

演題：「Society 5.0時代 高校生の保護者の役割」
～わが子が新しい時代を生き抜くには？
高校3年間で、どう育つ？ 保護者の役割は～

・日時：令和元年10月5日(土)
13:00～14:45 (受付開始 12:30)

・会場：ホテル千秋閣 7F 鳳凰の間
徳島市幸町3丁目55番地 TEL 088-622-9121

・参加者：各単位のPTAの会長、副会長、会員、教員等約180名

・申込方法：各PTA単位で、所定の用紙で9月27日(金)までに、お申し込みください。

徳島県高等学校PTA連合会
— 私たちは、18歳の挑戦をサポートします —



第63回
63

第63回中国・四国地区高P連大会 徳島大会第1回準備委員会報告

徳島大会まで残すところ2年!!

令和元年6月29日(土)、徳島県教育

会館において、第63回中国・四国地区高P連大会徳島大会第1回準備委員会を開催した。冒頭、東條貴司準備委員会委員長から「令和3年に実施される第63回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会徳島大会の第1回目の準備委員会になる。大会まで残すところ2年となったが、記念講演、アトラクション、大会スローガン、大会シンボルマークをはじめ、会則、運営組織、役割分担など、協議して決定しなければならぬことが山積している。

少子化で高校生が減少し、PTAの会員も減少しているが、前回大会を上回る盛会となるよう皆様のご協力を

お願いいたします。子どもたちのため、中・四国高P連の保護者のために、参加してよかったです。と思っただけの大会にできませんようご協力をお願いいたします。」との挨拶があった。議題1・大会運営概要(案)についてでは、

- ①第63回中四国高P連徳島大会開催要項(案)(別表)
- 第63回中四国高P連徳島大会実施細案
- ②県内参加割当要請人数(案)
- 県外参加予定人数(案)
- ③各部会役員人数(案)
- ④各単P役員動員人数(案)

第63回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 徳島大会 開催要項(案)

1. 趣 旨 ● 高等学校教育の振興、高校生の健全育成及び高等学校PTA活動の推進等に関する重要問題について研究協議する。
2. 主 催 ● 中国・四国地区高等学校PTA連合会
● 全国高等学校PTA連合会・徳島県教育委員会(後日申請)
3. 主 管 ● 徳島県高等学校PTA連合会
4. 後 援 ● 徳島県・徳島市・徳島市教育委員会・徳島県高等学校長協会(後日申請)
5. 期 日 ● 2021年(令和3年)7月16日(金)
6. 会 場 ● アスティとくしま
徳島市山城町東浜併示1
TEL (088) 624-5111
7. 参 加 者 ● 中国・四国地区高等学校PTA連合会会員
8. 日 程 ● 7月16日(金)
 - 9:00~10:00 ● 受付
 - 10:00~10:35 ● 開会行事
 - 10:40~12:10 ● 研究協議
 - ①島根県 テーマは未定
 - ②鳥取県 テーマは未定
 - ③徳島県 テーマは未定
 - 12:10~13:00 ● 昼食
 - 13:00~14:00 ● アトラクション
 - ①未定
 - ②阿波踊り
 - 14:10~15:40 ● 記念講演
 - 演 題 未定
 - 講 師 未定
 - 15:45~16:00 ● 閉会行事

⑤徳島大会予算(案)

が審議され、「研究協議」の議長団は、徳島県と、次期開催県である、岡山県が担当する。徳島県の議長は、前年の広島大会でも議長をする。発表校は昨年度の幹事会で徳島商業に決定済みであることを確認した。

②については、平成30年度第5回幹事会で審議したが、引き続き継続して審議する。

③については、平成30年度幹事会で審議したが、今後の在籍生徒数の増減を勘案して、決定することとしている。

④については、実行委員長校及び議長校が未定であり、部会の担当校も未定であるため、継続して審議する。

⑤については、原案が承認された。議題2・大会実行委員会の設立については、

①実行委員会会則(案)

②実行委員会組織図(案)(別表)

③その他

が審議され、引き続き検討する。

議題3・徳島大会準備委員会の設置期間、役割、業務等については、設置期間は、本日から実行委員会が立ち上がるまでの間である。実行委員会で決定すべきことが多々あるが、研究協議議長や大会テーマなど、準備委員会で審議する。準備委員会の審議事項は、実行委員会を引き継ぐ。議題4・その他については

- ①中四国大会過去の大会テーマ、記念講演
- ②第63回中四国高P連徳島大会日程(案)(別表)
- ③その他

①、②、③については、大会テーマ、サブテーマについては今後も検討すること、現時点で決定されている日程等が審議されました。

今後は、準備委員会を十月二十六日(土)、一月(未定)、三月(未定)に開催し、具体的に内容を詰めていく。来年度の総会後の六月を目途に大会実行委員会を発足させ、準備委員会の審議事項を引き継ぐとともに、広島大会の視察、各部門ごとの運営委員会を重ねながら大会までの諸準備を進める。大会役員をはじめ各単Pの会員の皆様、関係機関等の方々にも大なお協力を頂きながら、徳島大会が無事に終了できますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



徳島大会実行委員会組織図（案）

部	係	業 務 内 容
企画調整	大会運営スケジュール	各部会の連絡調整、事務局との連絡調整 実行委員会立ち上げから大会終了までのスケジュール作成
	大会運営前準備	大会看板・大会シンボルマーク・大会スローガン・参加者記念品・役員ユニフォームの決定、大会案内・大会要項作成、アトラクション出演校選定、県物産販売校の選定、講演会講師選定、司会者選定、研究協議議長選定、県別座席表作成等
	大会基本事項の企画	全国高P連、中・四国高P連、県、市、県教委、市教委、 高校長協会との共催・後援名義使用申請・承認 来賓案内、祝辞依頼、挨拶依頼、大会案内の作成・配布、 大会要項の作成、各種礼状の作成・送付、東署・消防署・市医師会への届出
庶務・広報	資料収集	県市観光パンフレットの収集、役員名札の作成、リボン準備
	昼食内容選考	昼食メニューの検討・決定（受付・昼食部と協働）、検討委員を2名選出 昼食券・資料引換券の作成、参加者名簿の作成
	袋詰め	袋詰作業（袋、大会要項、県市観光パンフレット、記念品）
	教育懇談会	案内、進行
	大会報告書作成 (編集委員会)	大会報告冊子の作成・配布（令和3年12月末までに） 大会報告書用に大会開催に至るまでの場面も含めて、 報告書作成の観点から記録写真を数名で撮影、音声録音・テープおこし
式典運営	開会式、閉会式の進行、 司会者への指示	大会全体の進行 開閉会式、講演、アトラクションの司会 教育懇談会の司会
	来賓、主催者、 大会役員、講師、 アトラクション 出演者の誘導	来賓（知事、市長、市教育長、高校長協会会長）、主催者（全高P連会長、県教育長）、 大会役員（中四国各県会長・事務局長）を各控室から舞台へ誘導、終わって控室へ誘導 講師・アトラクション出演者を各控室から舞台へ誘導、終わって控室へ誘導 講師等への講演時間制限の表示（5分前・1分前）
研究協議	議長・発表者	研究協議の司会進行表（議長団）、 議長・発表者の打ち合わせ 県内外発表者の発表原稿・プレゼンテーションの事前とりまとめ 研究協議の座席準備
案内・接待	来賓、講師、 主催者、役員	①来賓（知事、市長、市教育長、高校長協会会長） ②講師 ③主催者（県教育長、全国高P連会長、実行委員会正副委員長） ④役員（中・四国高P連会長・事務局長） ⑤研究協議議長・発表者受付 ※リボン、資料渡し、控室への案内・接待 各控室に昼食準備
	研究協議議長・発表者	
	総合案内所設置	参加券・昼食引換券の再発行
	報道関係者	報道関係者受付 ※受付の表示、受付簿
	アトラクション出演者	アトラクション出演者 ※控室に湯茶・弁当準備
受付・昼食	受付	受付用机・立て札（県名）を設置 資料袋を格納場所より受付へ搬出 来賓・主催者・役員・実行委員会役員・参加者（県別）を名簿により受付
	昼食	昼休み前 業者が弁当を搬入、受取 昼食・お茶の引き換え場所・回収場所の表示 一般参加者への弁当、お茶の受け渡し（昼食券引換） ※昼食時間前の弁当配布は厳禁 ※混雑を避け、県外・県内参加者の配布場所を離す（県外1F、県内2F） 弁当の殻・お茶のパックを回収（箱・袋の設置、業者に依頼） ※郷土色豊かな昼食メニューの検討、部会内で検討委員を3名選出、 庶務・広報部と協働して検討・決定

部 係	業 務 内 容
会 場	会場設営 玄関に大会の立て看板設置 レアウトに従い、県外参加者席（1,000）の椅子の設置、県内参加者は2階の固定席（600） 全体の座席図に県名を示し、2～3ヶ所に掲示 県名を表記した立て看板を準備し、開会行事の開始まで表示
	ステージ設営 ステージ上部に大会看板、研究協議・講演の懸垂幕、国旗・県旗掲揚 レアウトに従い、式典の舞台準備（机、椅子、白布、登壇者垂れ札の貼付、マイクの設置） 盆栽、水差し 開閉会式・講演・研究協議・アトラクションの会場設営、撤去 司会者席・手話通訳者の位置確定
	案内・呼び出し・救護 案内・呼び出し受付機の設置・表示、ホワイトボード 救護室の表示、救急箱用意
駐 車 場	駐車場 来賓駐車場（事務所南側）、役員駐車場（多目的広場）、一般駐車場（第2駐車場）、 大型バス駐車場（多目的広場）の表示・案内
	進入路 アスティとくしまへの進入路案内 県内役員用駐車券の発行
写 真 ・ 記 録	写真・ビデオ 録音記録 風景・会場正面、駐車場、受付、会場、開閉会式、アトラクション、講演、研究協議等 人物・来賓挨拶者、主催者挨拶者、役員、司会、講師、研究協議議長、発表者、質問者、参加者等 開会式より閉会式までのすべての録音、アスティの係員及び業者に委託契約 ※庶務・広報の者が、大会報告書用に別途写真撮影

63 第 63 回 中・四国高P連徳島大会スケジュール

令和 1.	6. 29 (土)	第1回徳島大会準備委員会（教育会館）
	7. 12 (金)	中・四国高P連島取大会の視察
	8. 23 (金)	徳島大会の講演講師の依頼
	8. 27 (火)	徳島大会の参加記念品候補選定
	9. 3 (火)	徳島大会のアトラクション出演候補校の選定
	9. 5 (木)	//
	9. 8 (日)	//
	9. 12 (木)	//
	9. 12 (木)	徳島大会のシンボルマークデザイン作成候補校の選定
	9. 24 (火)	徳島大会参加者記念品の作成打診
//	県物産展への出品打診	
//	徳島大会のアトラクション出演候補校の選定	
9. 27 (金)	徳島大会のアトラクション出演構想検討	
10. 26 (土)	第2回徳島大会準備委員会（教育会館）	
令和 2.	1. 未 ()	徳島大会シンボルマーク完成
	2. 未 ()	徳島県PR用DVD完成
	()	第3回徳島大会準備委員会 ()
	4. 11 (土)	幹事会（教育会館）
	5. 30 (土)	幹事会・理事会（教育会館）
	5. 未 ()	中・四国高P連徳島大会の研究協議議長（本県役員）報告
	//	広島大会閉会式で使用する徳島県PR用DVD提出
	6. 12 (金)	高P連絡会（教育会館）
	6. 19 (金)	中・四国高P連絡会（広島県）
	//	研究協議議長打合せ（広島県）
6. 20 (土)	中・四国高P連徳島大会第1回実行委員（教育会館）	
6. 21 (日)	各単Pの会長・校長に徳島大会への参加割当人数・担当運営部会と役員人数の決定報告および依頼文発送	
7. 10 (金)	第62回中・四国高P連徳島大会（広島県）	
//	本県役員が研究協議議長を担当、閉会式で本県会長が次年度開催をDVDで紹介・歓迎挨拶	
//	徳島大会実行委員会の各部長・副部長を中心に広島大会を視察・担当係からアドバイスを聴取	
7. ()	第1回企画調整部会・庶務広報部会 ()	
8. ()	第2回 // ()	

令和 2.	9. ()	第1回大会運営部会（アスティとくしま） <各部長・副部長と所属単P代表1名、約50名>
	10. ()	大会運営部長・副部長会議 () <約30名>
	11. 13 (金)	中・四国高P連理事会・事務局長会（広島県） ※徳島大会開催要項（案）発表・承認
	11. ()	中・四国高P連徳島大会第2回実行委員会 ()
	12. ()	大会運営部長・副部長会議 ()
令和 3.	1. ()	第2回大会運営部会
	2. 上旬	※徳島大会の共催・後援の申請
	2. (土)	中・四国高P連徳島大会第3回実行委員会 ()
	3. ()	第3回大会運営部会 ()
	4. 10 (土)	※徳島大会案内の送付（中・四国各県へ）
	5. 25 (火)	※県内単Pより県高P連へ参加申込締め切り
	5. 29 (土)	中・四国高P連徳島大会第4回実行委員会 () 第4回大会運営部会
	6. 1 (火)	※各県連より徳島高P連へ参加申し込み締め切り
	6. 11 (金)	高P連絡会（教育会館）
	6. 18 (金)	中・四国高P連絡会（徳島県）※徳島大会要項提示
6. 22 (火)	第5回大会運営部会（アスティとくしま）	
7. 2 (金)	※大会参加費締め切り	
~9 (金)	大会資料の袋詰め	
7. 15 (木)	第6回大会運営部会（アスティとくしま）	
//	大会リハーサル（アスティとくしま）	
7. 16 (金)	「第63回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 徳島大会」（アスティとくしま）	
//	中・四国9県役員交流懇親会（徳島クレメントホテル）	
7. 23 (金)	来賓、全高P連、各県高P連に礼状送付	
8. ()	大会運営部長・副部長会議 ()	
8~11	徳島大会報告書編集委員会	
11. 12 (金)	中・四国高P連理事会・事務局長会（徳島県）	
11. 未	徳島大会報告書送付（中・四国各県へ）	
12. 中旬	中・四国高P連徳島大会第5回実行委員会	
令和 4.	2. 5 (土)	全高P連第2回総会（東京）
	~6 (日)	徳島大会のアトラクション出演構想検討
	3. 11 (金)	中・四国高P連事務局職員連絡会議（徳島県）

参加人数
約120名
を予定!!

徳島大会の前年度大会

第 62 回 中・四高P連広島大会

日時 ● 令和 2 年 7 月 10 日 (金)
 場所 ● 広島市文化交流会館

参加人数
約80名
を予定!!

中・四国ブロックでの全国大会開催

第 70 回 全国高P連島根大会

日時 ● 令和 2 年 8 月 20 日 (木)・21 日 (金)
 場所 ● 島根県民会館他

令和元年

元

令和元年度高P連・安全互助会総会報告

家庭の教育力向上をめざして！

新会長に東條貴司氏（城東高校PTA会長）を選出

令和元年度徳島県高P連・安全互助会総会は、6月11日（火）、徳島県教育会館において、単位PTAの代表者194名が出席して開催された。

開会行事の中で稲井弘明会長から「元号も代わり、成人年齢も引き下げられようとしている。大学入試制度も変わるうもたれに對して、適切な情報の収集と伝達、情報を共有し発信して広く役立てることが大切だ。もう一つは、人間力の向上であり、この二つを示すことができるのがPTA活動だ。総会を新しいコミュニケーションのスタートとして、我々も成長を続けられる、前向きなネットワークになればと思っている。今後とも会員の皆様方のご支援ご協力をお願いします。」との挨拶があった。

続いて、県連表彰を受賞された146名を代表して篠宮綾子氏（城北高校PTA前会長）に表彰状が贈呈された。

その後、来賓の儀宝修県教育委員会教育次長から「県教委としては、今後とも生徒一人一人が個性を大切にしながら能

力を伸ばし、自己実現を図っていただけるよう全力を注いで参ります。PTAの皆様

におかれましては、個を伸ばす教育や特色ある学校づくりにいっそうの御理解と御支援をお願いいたします。」との祝辞が、また、森本俊明徳島県高等学校長協会会長からは、「教育は今、大きな変革期を迎えている。こうした状況の中、日々の教育活動に取り組む各学校において大切なことは、教職員一人一人が持てる力と情熱を生徒に向けて十分に発揮することであり、そのために教職員組織の充実を図るとともに、教育環境を整備することが重要であると考えています。教職員

組織の充実、教育の質の向上に取り組み、こどもたちが夢を持ち、一人一人が夢の実現に向かって、元気に学校生活を送ることができるよう努めて参りますので、皆様方の一層の御支援、ご協力をお願いいたします。」との祝辞があった。

次に、稲井会長を議長に選出して議事に移った。第1号議案・平成30年度事業報告、第2号議案・平成30年度決算報告、第3号議案・平成30年度会計監査報告が

それぞれ提案され、承認された。

第4号議案、令和元年度役員改選では、新会長に東條貴司氏（城東高校PTA会長）が選出され、副会長に4名、幹事に7名、常務幹事に1名、監事に3名が、それぞれ選出された。

第5号議案では、感謝状贈呈並びに旧役員挨拶に移り、東條新会長から稲井弘明前会長に感謝状が贈呈され、旧役員を代表して稲井弘明前会長から「高P連の活動では子どもを見守る気持ちを共通のものとして、より多くの方々と繋がる可能性を感じて頂けたらうれしいなと感じながら、1年間という貴重な時間を過ごさせて頂きました。本日まで参加頂いている皆様は勿論のこと、本日に多くの方のご協力無くしては、こうして旧執行部役員が任を終えることはできなかったと思います。本日に1年間ありがとうございました。続く第6号議案・新役員挨拶では、新役員を代表して東條貴司会長が「徳島県高P連の事業等につきましても、色々とご苦労ご不便をおかけすること存じますが、ひと

りでも多くの方にご参加頂き、研鑽の場としてお役立て頂けたらと思います。さらに、各単位PTAにお持ち帰り頂き、お役立て頂けるよう、微力ながら、頑張ってお参りたいと思っておりますので、今後ともよろしく願います。」との就任挨拶があった。

その後、東條貴司会長を議長に、第7号議案・令和元年度活動方針、令和元年度事業計画、第8号議案・令和元年度予算編成方針、令和元年度予算が審議され、承認された。





令和元年度 役員

Table of board members with columns: 役職名, 氏名, 所属. Includes 会長 (東條 貴司), 副会長 (吉田 和史), etc.

Table of staff members with columns: 役職名, 氏名, 所属, ブロック. Includes 監事 (巻島恵子), 監事 (西宮 治), etc.

総会当日に披露された全国表彰受賞の個人・団体、県連感謝状・表彰状を受賞された方々は次のとおりである。

- List of award recipients including '全国表彰受賞者' (National Award Recipients) and '県連表彰受賞者' (Prefecture-wide Award Recipients) with names and affiliations.

令和元年度 事業計画

- Activity schedule listing dates and events such as '第5回幹事会 (教育会館)', '会計監査 (教育会館)', etc.

*幹事会及び第63回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会(徳島大会)の会議等は必要に応じて開催。

令和元年度 活動方針

- Activity policy text: '心豊かで主体的に逞しく生き、社会に貢献できる青少年の健やかな成長を願い...' followed by 7 numbered points.

第61回中国・四国地区 高P連大会鳥取大会報告

大会テーマ「ひらけ翼！はばたけ未来！」
 ～巣立ち応援、親力！！～ 本県から22校・54名が参加

7月12日（金）、とりぎん文化会館・梨花ホールを会場として、第61回中国・四国地区高等学校PTA連合大会鳥取大会が開催された。中・四国各県から約1,500余名が参加し、本県からは、22校54名が参加した。

開会行事では、主催者の中国・四国地区高P連会長の西川正孝氏から「子どもたちは未来から現在に送られてきた大切な留学生である。いくらA-1がすごかろうが、ICTが発達しようが、私たちが子どもたちの親であることは決して変わることはない。世の中に出て、うまく立ち回るための準備は必要ではないが、懸命に学び教養を身につけ、多少遠回りでも、無駄な時間を謳歌することも、高校生の特権ではないだろうか。鳥取らしい鳥にちなんで「開け翼、羽はたけ未来、巣立ち応援親力」をテーマに、皆様の研究協議が各学校のPTA活動を一層飛躍させる有意義な機会になることを心から御祈念いたします。」との挨拶があった。

つづいて、全国高等学校PTA連合会会長の牧田和樹氏から「最近はいろいろな情報通信機器が発達したため、移動距離にかかわらず、最新の情報が手に入る時代になった。その一方で、フェイス・ツー・フェイスで情報交換することも大切である。この中国・四国地区高P連大会が、まさに、フェイス・ツー・フェイスで情報交換する場であると思う。今

日一日が皆様にとって素晴らしい一日となることを御祈念いたします。」との挨拶があった。

さらに鳥取県教育委員会教育長の挨拶に続いて、来賓祝辞として、鳥取県知事、鳥取市長から挨拶があった。

記念講演では、東京大学名誉教授の養老孟司氏が、「養老流親と子の話」くたくましく生きる力」と題して講演をされた。内容は「少子高齢化が進み、特に若者の人口が減っている。人が多く、人間の価値が安い時代が続いてきたが、少子化によって人の価値が高くなる。そういう意味で悪い時代ではない。

都会は人が集まってきて人口が増えるかと思うと、実際には減る。若い人には、一度都会を見て、田舎に戻ることを勧めている。田舎での人間関係のわずらわしさは、一種の保険である。近代化してくと全部保険になり、年金だとか色々な保険が必要になる。人間関係をお金に換えていったのが現代社会であり、田舎ではお金にしないで人間関係で行っている。

25年くらい前から、病院で患者さんがどうい扱いを受けていたか。医者も患者を診ないで、データから判断するようになった。会社では若い社員が、同じ部屋にいる上司にメールで報告を送ってくる。仲間同士もメールで話し合っている。直接顔を合わせると、仕事以外のこ

とが色々ついてくる。メールはそういうことがすべて落ちる。つまり我々が考える上司とは、ノイズであり、雑音である。患者さんそのものはノイズである。皆さん自身がノイズになる社会を我々が便利だ、経済的だ、効率的だと言いつつつくってきた。社会は人間が中心になるべきなのか、経済性、効率性が中心になるべきなのか、もう一度考えなければならぬ。

財産については、カナダでストレスの研究をしたハンス・セリエという学者の父親は、セリエに『自分の身についていたものだけでも、どこでも通じることであり、今でも真実である。お金や名声は、真面目に働いていけば後からついてくるものだ。』など、多方面にわたって説得力のあるお話をされた。

研究協議では、「親のせなか」く子どもたちの未来のために」と題して、広島県立三次中学校・高等学校PTA顧問の法野谷 智氏から「PTA企画による創立110周年記念事業の一環として、保護者によるキャリアアドバイス「親のせなか」を発刊した。学校においては、生徒たちのキャリア教育の教材として活用されている。家庭においても、保護者と生徒たちがいっしょに進路を考える話題のきっかけとしてこの冊子を活用している」と紹介された。

次に山陽女子中学校・高等学校緑会元会長・渡邊孝一氏から「愛と奉仕」そして感謝」133年を振り返って」と題して発表された。内容は「85年にわたるハンセン病療養所との交流が続いており、2006年からは、全校生でボランティア活動に参加している。PTA活動では、学校の教育理念に賛同して、特別養護老人ホームを月に2回訪問してボランティア活動を実施している。」と、取り組みについて紹介された。

最後に、鳥取県立鳥取東高等学校の前

PTA会長、網谷憲治氏からは「大切にしたい思春期の食生活」く親から子に伝える生きる力」と題して発表があった。内容は「PTAの専門部に健康生活部があり、学校で行っている生活習慣に関するアンケートの結果を分析し、子どもたちのヘルスプロモーションに役立つような活動を目指して、「食」を通して活動することにした。」として、様々な活動を紹介された。

その後開会行事が行われ、西川正孝・中国・四国地区高P連会長の挨拶に続き、次年度開催となる広島県高P連・伊福聡会長から、「全力で大会準備に取り組みますよう、待つとるけえね」との歓迎の挨拶があって、鳥取大会は盛会のうち





第61回

61

第61回中国・四国地区 高P連大会鳥取大会に参加して



徳島市立
高等学校PTA
会長 前林 永子

「ひらけ翼！はばたけ未来！」巢立ち応援、親子！！」を大会テーマに、第61回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会鳥取大会が7月12日、とりぎん文化会館梨花ホールにて中国・四国各県より1500名を超える参加者のもと、盛大に開催されました。

開会行事は国歌斉唱で始まり、大会実行委員長の西川昌孝氏、全国高等学校PTA連合会会長の牧田和樹氏、鳥取県教育委員会教育長の山本仁志氏の挨拶と続きました。それぞれの挨拶の中に、自身の子育てに対する思いや、子どもたちを取り巻く現代社会の現実や問題点などが織り込まれ、今大会のテーマである「親として何ができるのか」という視点に立った熱い思いが伝わってきました。

ところで、鳥取県を象徴する要素がふんだんに盛り込まれています。テーマには、「翼」「はばたけ」「巣立ち」など若者を連想させると同時に「鳥」にちなんだ言葉が用いられ、大山・砂丘・星空・梨と、鳥取県を代表する観光名所や特産品をうまく図柄に取り入れたシンボルマークになっています。平井鳥取県知事をはじめとする来賓の方々が、時に自虐的に、時に誇らしげに県のPRをされる姿から、鳥取県に対する溢れんばかりの郷土愛が伝わってきました。と同時に、わが徳島県と同様、過疎や人口減少に悩む地方県・地方都市の課題や真剣な取り組みが印象に残る開会行事でした。



講演では医師であり著名な作家でもある養老孟司氏の、多岐にわたるお話に時間を忘れて聞き入りました。
4歳で死別した父の臨終の記憶、医師で死生観に大きな影響を与えているというお話や、カナダ人生物学者ハンス・セリエの「身に着けた技術や知識だけが本当の財産だ」というお話がたいへん心に残りました。偶然にも、私自身もこの言葉を幼い頃から繰り返し聞かされていて、不思議な縁を感じました。また、現代社会が抱える親子関係の難しさ、人口減少や超高齢化社会の問題、AIが進歩した未来の日本で人間がなすべきことなどについて、独自の視点から持論を展開された81歳とは思えない斬新な発想力で、私たちにこれからの生き方について考えるヒントを示してくださいました。

屋食をはさみ、高校生による発表では、高校の音楽部としては珍しいジャズ・オーケストラ部の演奏や、詠（うた）いに乗せて剣や扇を使って踊る吟詠剣詩舞部の舞が披露されました。高校生には馴染みが浅いであろうこれらの部活動を始めるときつかけや魅力、将来の夢などをもっと尋ねてみたいという思いがしました。近年ブームにもなっている書道パフォーマンスは、ダンスの技術も高く、その迫力に息を飲むほどの圧巻の舞台でした。高校生の、羨ましいほどのひたむきさと情熱を感じた3校の発表でした。

続いて行われた研究協議では、3校のPTAの取り組みが発表されました。最初の広島県立三次中学校・高等学校からは、「親のせなか」というPTA誌についての取り組みが発表されました。この誌が単なる寄稿誌ではなく、保護者から子どもたちへのキャリアアドバイスであり、キャリア教育の教材になっているという点にたいへん興味を持ちました。実際に様々な職業の親たちの「生」の声を聞き、仕事の厳しさや悩み、やりがいを知ること、子どもたちが将来の夢を育んだり、社会人・職業人としての心構えを学んだりする、「生きた教材」として活用されていることに、PTA誌のひとつの意義を感じました。

次の山陽女子中学校・高等学校の発表では、保護者の自主性を重視した委員会組織や、学校の教育理念でもある「愛と奉仕」の精神の下、長年の社会貢献活動の取り組みが紹介されました。PTA活動が義務ではなくボランティアであるからこそ、お互いに気遣いを忘れず、思いやる雰囲気づくりを大切にするとこの活動精神には大いに共感させられました。来年度から男女共学化が実施されるそう

ですが、133年前に先進的な女子教育を目指した開校精神はそのままに、今後も魅力あるPTA活動が続けられるに違いないと感じました。

最後に発表された鳥取県立鳥取東高等学校は、保護者が積極的に学校行事や教育活動に関わっており、その中の「健康保健部」の取り組みが紹介されました。生徒の体調と朝食の品目数に着目し、データから関連性を分析し、3年間を通じて系統立てて食育を実践する、まさにPTAによる教育活動とも言える実践報告でした。その根底にあるのは、日々頑張っている子どもたちを元気に学校に送り出したいという親心であり、親から子に伝える「生きる力」の源である「食」の大切さでした。親として、最も大切にすべきことに気づかされた発表でした。

3校の発表を通じて感じたことは、保護者が子どもや学校に無関心であってはならないということです。子どもの現状や学校行事、教育活動に関心を持つことで、PTA活動にも参加してみようという意欲が生まれます。そして実際に参加することで、様々な立場や職種、考え方の人と出会い、自分とは異なる考えを知ることができ、自己研鑽につながります。また、同年代の子どもを持つ親同士で理解・共感しあえることも多く、悩みを相談できる仲間づくりにもつながります。学校・保護者・社会が連携して子どもたちの成長を見守り、後押しする体制づくりの大切さを、改めて実感しました。

最後に、鳥取大会の印象的な思い出として、大会関係者の挨拶運動がありました。会場入りした瞬間から会場を後にするまで、すれ違うスタッフの誰もが常に笑顔で挨拶してください、鳥取に対して好印象を抱きました。再来年の徳島大会でも、ぜひ手本にしたいおもてなしの気持ちだと思いました。

今大会に参加させていただいて、県内各校のPTAの皆様と交流し、様々な情報交換をする貴重な機会に恵まれました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。